4

ハリー・ウィンストンで「オーパス」プロジェクトを立ち上げたマキシミリアン・ブッサーさんは
2005年秋、自らのブランドを創設した。マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ、この名が彼の姿勢を表現する。

MB&F

ジュネーブ旧市街の小さな館で集う仲間たち

Photo/Takenori Aoki(WPP)　Text/Tomoko Kayama(WPP)

MB&F

ジュネーブ旧市街の小さな館で集う仲間たち

マキシミリアン・ブッサーさんはMB&Fを
「すばらしいオロロジカル・マシンの創造をめざす
ヒューマン・アドヴェンチャー」と位置づける。
時計製造に関わる専門家たちを仲間に
いままでに独創的な3つのマシンを完成させた。
彼はプロジェクトに関わったすべての仲間の
名前を明らかにしている。
ひとりではできない冒険も、
仲間たちの力が揃ったとき達成できるからだ。

マキシミリアン・ブッサーさんはスイス時計業界のなかで華やかなキャリアを積んできた。1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校でマイクロ・テクノロジー・エンジニアリングの修士号を取得し、ジャガー・ルクルトで製品開発、マーケティング、セールスなどを経験した。そして'98年、31歳でハリー・ウィンストン レアタイムピースシズの社長に抜擢された。2001年にスタートした「オーパス」シリーズをはじめ、ハリー・ウィンストンを高級機械式時計の世界へと導いた功績は高く評価されている。しかし'05年、彼は大企業から離れて独立するという道を選び、「MB&F（マキシミリアン・ブッサー&フレンズ）」を創業した。オーパス・プロジェクトを通して彼は多くの人に出会い、彼らの協力なしにプロジェクトは成し得ないことを痛感し、だからこそ理解しあえる人々とともに新たな冒険を試みることに踏み切った。

2006年、「オロロジカル・マシン№1」を発表。彼がコンセプトを考え、デザイナーのエリック・ジローさんがデザインを、レ・アルチザン・オロロジャーのロラン・ベッセさんとパトリック・レテさんがムーブメント開発を、独立時計師のピーター・スピーク・マリンさんがコンサルティングと品質管理を担当した。またケースはシャネル傘下にあるG&Fシャトラン社が製作を請け負った。彼は発表にあたり、「フレンズ」としてプロジェクトに関わった23人すべての名前を公表した。いままで表舞台に出ることがなかった人々だが、彼らの力がどれほど重要かを彼は知っていた。その後、「オロロジカル・マシン」は№2、№3と続いている。どれも既成概念を超えたアバンギャルドな時計だ。デザインはいずれもハリー・ウィンストン時代に知り合ったエリック・ジローさんが担当している。

現在、「MB&F」はジュネーブ旧市街に総勢7名の小さなオフィスを構える。16世紀に建てられた建物の一部だ。昨年9月にはG&Fシャトラン社のマネージング・ディレクターだったサージ・クリノフさんが最高責任執行者として加わり、体制が強化された。オフィスには小さな時計工房がある。そこでふたりの時計師が№3の組み立てを行なっていたが、彼らもクリノフさんもここで働く人々はハリー・ウィンストン時代に共に働き、彼を慕い集まってきたフレンズだ。「この間までひとりで飛び回っていたのに」とブッサーさんも感慨深い。人の力に勝るものはない。

MB&F

Horological Machine No.3

2009年発表の「オロロジカル・マシンNo.3」。ジラール・ペルゴ製自動巻きムーブメントをベースにアジェノー社のジャン−マルク・ヴィドレヒトさんが設計。
ふたつのコーンで時と分を表示し、ムーブメント周囲に大型の日付表示リングを備える。
表側に“ダブルハーケン”型ローターをおき、裏側には動力を効率よく表示機構に伝達するための直径15㎜のセラミックス製ボールベアリングをおく。パワーリザーブ約48時間。
ケース・サイズ47x50x厚さ16㎜。右／「スタークルーザー」。18KRGとチタニウム。左／「サイドワインダー」。18KWGとチタニウム。価格共に777万円

Only Watch

2009年9月24日にモナコで開催されるチャリティー・オークション「オンリー・ウォッチ」に出展するために製作されたユニークピース。
オークションの売り上げはすべてデュシェンヌ型筋ジストロフィの国際医学研究プロジェクト協会に寄付される。
MB&Fではロサンゼルスに住むアーティスト、セイジ・ヴォーガンさんに協力を依頼し、オロロジカル・マシンNo.2のなかに彼のアートを組み込んだ。
ブラック加工を施したゴールドの針金にブルー・ゴールドの蝶が捕らわれている構図は難病に侵された子供たちの悲しみと切ない希望を表現する。
（完成モデルはローターがブルー・ゴールド製となります。）

Horological Machine No.1

MB&F

2006年に発表したオロロジカル・マシン第1号。約7日間のパワーリザーブをもつディミエ1738製自動巻きトゥールビヨン・ムーブメントを
ベースに、左右に分離した時・分表示を備える。ムーブメントの設計はレ・アルチザン・オロロジャー所属のロラン・ベッセルさんとパトリック・レテさんで
独立時計師のピーター・スピーク-マリンさんがコンサルティングを行なった。ケース・サイズ縦41×横64×厚さ14㎜。3気圧防水。
右／18Kレッドゴールド。左／18Kホワイトゴールドにブラック PVD。価格共に2026万5000円

Horological Machine No.2

2007年発表の「オロロジカル・マシンNo.2」に加わったセラミックスを使ったモデルで、今年、発表された。
ジラール・ペルゴ製自動巻きムーブメントをベースに、アジェノー社のジャン−マルク・ヴィドレヒトさんが開発。パワーリザーブ約46時間。
右側にジャンピングアワーと同心レトログラードミニット、左側にレトログラード・デイトと両半球ムーンフェイズを備える。
ケース・サイズ縦47×横50×厚さ16㎜。3気圧防水。右／「HM2-CR」。18KRG とセラミックス。左／「HM2-CTi」。18KWG とセラミックス。価格共に698万2500円